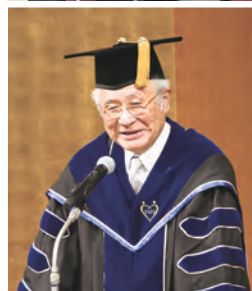




THCU Chronicle *Heart* No.24 Summer 2017

第24号



**東京医療保健大学の都内4つ目のキャンパス
国立病院機構立川キャンパスが本格始動**

平成29年4月1日より東が丘・立川看護学部看護学科の災害看護学コースのメインの学び舎となる国立病院機構立川キャンパス（通称・立川キャンパス）が本格始動になりました。本号で特集ページを設けておりますので、ぜひご一読いただければ幸いです。

CONTENTS

目次

- 2 ・国立病院機構立川キャンパスが本格始動
- 3 ・平成28年度4年次生学科別進路状況
・「看護の日」に対する本学の取り組み紹介
- 4 ・カリキュラム評価に関する研修会開催
・医療保健学部看護学科の授業紹介
医療保健学部 看護学科
- 5 ・学術集会のご報告
医療保健学部 医療栄養学科
- 6 ・医療情報学科 新カリキュラムの科目紹介
(医療経営演習・情報ワークショップI)
医療保健学部 医療情報学科
- 7 ・学生生活の実態
・看護師国家試験100%合格を目指して
東が丘・立川看護学部 看護学科
- 8 ・遠距離通学を楽しく
・博士課程（看護学）1年目を終えて
大学院 医療保健学研究科
- 9 ・診療看護師（NP）として羽ばたく修了生達!!!
・信頼される助産師を目指して
大学院 看護学研究科
- 10 ・平成29年度 入学者選抜状況
- 11 ・国際交流の紹介
- 12 ・Topics

立川キャンパスが本格始働

立川キャンパスへの移動

東が丘・立川看護学部 看護学科 災害看護学コースは、平成26年度に初めての学生を迎え入れ、今年で4年目になりました。

新緑に囲まれた素晴らしい立川キャンパスの教育環境が整備され、本年4月から2、3、4年生は立川キャンパスに移動しました。4月4日には学長にも参加していただき、改めて「年度始め合同集会」を行いました。教職員一同、新たな気持ちで学生教育に邁進してまいります。

災害看護学コースの7つの領域を紹介させていただきます。

【看護基盤学領域】

領域長 たかき はるよし 高木 晴良 准教授

看護基盤学は、全ての看護の基盤となる知識を勉強する領域です。国家試験の頻出分野を勉強する「公衆衛生学」、卒業研究の取り組み方を勉強する「看護研究の基礎」、東が丘・立川看護学部の特徴である「臨床検査学演習」、災害コースの特徴で、DMATと協力して行う「災害看護実習」などの教科を担当します。

【基礎看護学領域】

領域長 いわみつ ひろこ 岩満 裕子 准教授

基礎看護学とは、医療の専門的知識を学ぶ上での言葉の理解、患者ケアに活かす専門的技術を習得する学問です。各専門分野の看護を実施する上で重要な土台となる領域です。自分の中で看護とは何かを考え、如何なる看護師になりたいかを形づくる領域でもあります。

【成人・老年看護学領域】

領域長 ふくだ よしえ 福田 淑江 准教授

成人・老年看護学は、青年期から成人期そして老年期にわたる長いライフステージにある多くの人々に関わる領域です。そして、生命の危機にある人、病気をもちながら社会生活を送る人、命の終わりを迎えようとしている人、さまざまな状況にある人々に求められる看護について学ぶ領域です。

【小児看護学領域】

領域長 くぼ きょうこ 久保 恭子 教授

日本で唯一の看護学部災害看護学コースにある、小児看護学領域では災害時に子どもの生命を守るための応急処置法、救急法を演習に取り入れています。また、災害後の危機的状況下にある子どもと家族への支援方法として、遊びやリラクゼーション、いくつかのセラピーを学生に紹介しつつ、子どもとその家族のこころのケアについて、共に学んでいます。

【母性看護学領域】

領域長 きぬがわ さえ子 衣川 さえ子 教授

母性看護学では女性の健康問題を性と生殖の面から捉え、女性と家族が生涯にわたり健康にイキイキと生活できるように支援します。

対象の意思を尊重して妊娠・出産・育児を支援できる看護師をめざして、講義・演習・実習を展開しています。アクティブに学んだ成果は、学生自身の将来の出産や育メンとしての生活に必ず役立ちます。

【精神看護学領域】

領域長 かねこ まりこ 金子 真理子 教授

精神看護学領域は、主に精神障害をもつ方の理解とケア、看護師を含め健康な人々へのメンタルヘルスやストレスマネジメントに関する知識や技術に関する講義・実習を行います。

講義や実習をとおして、対象理解のための高いコミュニケーション能力の育成と、障害をもつ人々への権利擁護、高い倫理観を兼ねそなえた看護師の育成をめざしています。

【在宅看護学領域】

領域長 さくらい れいこ 桜井 礼子 教授

高齢化や疾病構造の変化により生活習慣病などの慢性疾患が増加する中、医療・介護保険制度の改革により、療養の場は病院等から地域に大きくシフトしています。在宅看護学領域では、地域で生活する療養者とその家族に対して、対象の方の意思決定を支え、高いアセスメント能力と看護実践力を持ち健康管理を行うことのできる看護師の育成を目指しています。



年度始め合同集会での木村哲学長の挨拶



立川キャンパス本館



立川キャンパス本館 入口



立川キャンパス別館（食堂・研究室他）

平成28年度 4年次生学科別進路状況

1. 就職状況

- 文部科学、厚生労働両省による、今春卒業大学生の4月1日現在の就職率は、97.6%（昨年同期比0.3ポイント増）でした。
○本学の就職率は医療保健学部、東が丘・立川看護学部を合わせ98.8%となっております。

2. 各学科の状況（平成28年度卒業生） ※各学科の数字は過年度生を含みません。

(1) 医療保健学部 医療情報学科 就職率97.3%

就職希望者	就 職	73
	未 就 職	2
進 学 者	大 学 院	0
	専門学校他	0
そ の 他		1
卒業延期者		2
合 計		78

(2) 医療保健学部 医療栄養学科 就職率97.8%

就職希望者	就 職	91
	未 就 職	2
進 学 者	大 学 院	0
	専門学校他※	1
そ の 他		2
卒業延期者		6
合 計		102

※専門学校他 ・ 明星大学通信教育学部

(3) 医療保健学部 看護学科 就職率100%

			(人)
就職希望者	就 職	病 院	81
		保 健 師	4
		民間企業	1
	未 就 職		0
進 学 者	大 学 院		0
	専門学校他※		8
そ の 他			1
卒業延期者			5
合 計			100

※専門学校他 ・ 本学助産学専攻科（7人）
・ 帝京大学助産学専攻科（1人）

(4) 東が丘・立川看護学部 看護学科 就職率100%

就職希望者	就 職	病 院	79
		民間企業	1
	未 就 職		0
進 学 者	大 学 院 ※		9
	専門学校他		0
そ の 他			1
卒業延期者			10
合 計			100

※大学院 ・ 本学看護学研究科高度実践助産コース（7人）
・ 聖路加国際大学看護学研究科（1人）
・ 横浜市立大学大学院医学研究科（1人）

(5) 助産学専攻科 就職率100%

就職希望者	就職決定者	15
そ の 他		1
合 計		16

「看護の日」に対する本学の取り組み紹介



【看護の日とは？】

21世紀の高齢社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たち一人一人が分かち合うことが必要です。こうした心を、老若男女を問わずだれもが育むきっかけとなるようナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日に「看護の日」が制定されました。

●「看護の日」イベントに参加しました。

5月7日(日)に日本看護協会ホールにおいて、第7回「忘れられない看護エピソード」表彰式が行われました。このイベントに本学学生が参加し、表参道を行き交う人々に看護の日グッズの配布等を行いました。

●本学で「看護の日」朗読イベントが実施されました。

5月12日(金)に五反田キャンパスにおいて、第7回「忘れられない看護エピソード」朗読会が行われ、医療保健学部看護学科2年次生が出席しました。「看護の日」PR大使の川島海荷さんによる最優秀作品の朗読後、学生2名を交えたトークショーが行われました。朗読されたエピソードの内容と川島さんからのエールは学生達にとって大きな励みになったと思います。

●「忘れられない看護エピソード」の撮影に協力しました。

内館牧子賞を受賞した「闇の中の私」が映像化され、五反田キャンパスの実習室及び演習室で撮影が行われました。本ショートムービーは日本看護協会のホームページで公開されています。是非、ご覧ください。



PR大使の川島海荷さん(中央)と本学学生

カリキュラム評価に関する研修会を開催しました

2017年3月6日(月)に、カリキュラム評価をテーマとした春季FD研修を行いました。

研修は3部構成で、第1部では卒業時到達目標案について看護学科の教員40名で検討しました。卒業時到達目標案は、教育方針をより具体化し学生にも提示できるよう、看護学科の学位授与方針5項目について、それぞれ3つの下位項目を作成しました。ディスカッションを通して、卒業時到達目標案の洗練に寄与する意見を得ることができただけでなく、それぞれの教員が看護学科の教育方針を自身の教育活動と結びつけながら理解することにもつながったと思います。

第2部は大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部の佐藤浩章准

教授を招聘し、「カリキュラム評価の基本」について講演していただきました。佐藤先生からはカリキュラム評価の意義や基本的視点、評価主体、評価基準、評価方法等をお話いただき、参加者はカリキュラム評価に取り組むための基本的な知識を得ることができたと思います。なお、第2部には医療情報学科や医療栄養学科、教務部からもご参加いただきました。

第3部は、佐藤先生ご指導のもと、カリキュラムアセスメントポリシー作成ワークを行いました。看護学科教務委員11名と参加希望者9名の計20名が4つのグループに分かれ、本学科の学位授与方針を元にカリキュラムアセスメントチェックリストを作成しました。このワークを通して、評価基準や到達目標の設定、態度面の測定方法、多面的評価の必要性と現実可能性等、カリキュラム評価を行う上での課題を明らかにすることができました。

現在、日本学会看護学分会では「分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」、文部科学省の大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会では「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」が検討されており、今年の秋には公表・周知される予定です。看護学科では、こうした看護基礎教育をめぐる動きを踏まえながらカリキュラム評価に取り組み、本学が目指す「いのち・思いやり・人の絆・愛」を大切にする人材育成のため、より発展的な教育を行っていきたいと思います。

医療保健学部 看護学科 教授 末永 由理



基礎看護援助方法Ⅴ：健康が障害された対象への援助とチーム活動—発展 (Basic for Evidence Based Practice V) 授業の紹介

看護学科では、2015年入学生から新カリキュラムを導入しています。今年度は、新カリキュラム3年目となり、基礎看護援助方法Ⅴが3年生前期(5月10日)より開講されることとなりました。この科目は、これまでの基礎看護援助方法Ⅰ～Ⅳの学習を統合し、健康が障害された対象の個別的な状態に応じた身体・生活の観察およびアセスメントと、これにもとづく対象の日常生活援助技術の適切な選択、実施、評価が実践できる力の獲得をめざすことを目標としています。この目標を達成すべく、情報伝達の演習、治療系・生活系の客観的臨床能力試験(OSCE: Objective Structured Clinical Examination、以下OSCEという)を実施し、引き続き開講される各論実習前の自己課題の明確化を行うことを予定しています。



生活系OSCEの状況設定

治療系は手術療法後の患者、生活系は疾患を持ち在宅で生活している対象としており、模擬患者(SP: Simulated Patient)に依頼をして、実際の状況になるべく近い設定を考案しています。状況設定において課題や評価項目に問

題がないかの検討を繰り返し、学生がOSCEを具体的にイメージしやすいよう教員によるVTRの撮影を行いました。授業の進行とともに、教材開発、SPとの打ち合わせ、教員間による評価者トレーニング、デブリーフィング(振り返り)トレーニングを実施する予定です。急性期、在宅、機能、基礎、慢性期、小児、老年の各領域の教員が科目担当者となり、それぞれの役割を担いながら運営される授業となっています。学生が積極的に学び、次の実習に向けての課題が明確できるような仕組みをつくった授業となっています。

医療保健学部 看護学科 准教授 原田 竜三



第1回目授業の様子

第13回 日本在宅静脈経腸栄養研究会学術集会 報告

秋晴れの平成28年10月15日土曜日に神田一ツ橋の教育会館で第13回日本在宅静脈経腸栄養研究会が開催された。本研究会は、昭和60年に発足した日本在宅経腸栄養研究会と昭和61年に発足した日本在宅静脈栄養研究会が合体して、平成16年にスタートした研究会である。在宅における静脈経腸栄養の基礎的ならびに臨床研究の進歩、知識の交流、および普及に貢献することを目的としている。

医師が中心となってこれまで進められてきた本研究会であるが、最近では在宅での栄養管理において管理栄養士の役割もますます重要となっている。今回は、医師に加えて、看護師、薬剤師、作業療法士、介護士、ソーシャルワーカー、さらに栄養士も加わって、多くの職種の方々が専門性を越えて、在宅での静脈栄養や経腸栄養による栄養管理について活発に議論していただくことを願って企画した。

今回の参加者数は137名（有料93名、学生5名、招待8名、取材3名、主催校関係など28名）で、前回・前々回よりは多くなった。また一般演題として全国のさまざまな職種の方々から11題の応募があった。応募演題は少なかったが、おかげで発表・討論に時間的余裕があり、演題ごとに演者にとって今後の研究に示唆に富む指摘

を司会者からいただくことができた。

まず最初にパネルディスカッションとして「在宅栄養の地域連携を進めるために」を取り上げて、基調講演で新潟大学の小山諭教授に在宅ケアにおける経腸栄養と静脈栄養の現状を地域連携の観点から講演いただいた。引き続き静脈栄養については薬剤師の立場から、経腸栄養については管理栄養士の立場からの講演と急性期病院の術後患者や脳卒中患者の長期療養を要する患者の在宅栄養管理などについて講演と討論が行われた。

ランチオンセミナーには大村健二先生に「脂肪乳剤を含めた在宅栄養管理について」ご講演いただき、教育講演として「在宅栄養療法に関する感染の諸対策」について、感染管理が専門の高山義浩、黒須一見 両先生に講演いただいた。

特別講演には宗教史学者であり、倫理学者でもある上智大学グリーンケア研究所長 島蘭進先生（東京大学名誉教授）に「在宅医療とスピリチュアルケア」の御講演をお願いした。島蘭教授の講演は難解な内容になることが多いので、私と一緒に中井美穂アナウンサーに司会していただいた。楢山節考の話をもとに、在宅での終末期看取りにおけるスピリチュアルケアの重要性や最近の臨床宗教師の活動、などについてわかりやすくご紹介いただいた。

超高齢社会をむかえた我が国は、在宅や地域での医療・介護を重視する政策へと転換が進められている。また多くの患者や高齢者としてご家族が、在宅での医療・介護の充実を望んでいる。在宅での静脈栄養や経腸栄養による栄養管理もますます重要となっているが、しかし多くの問題がありまだまだ整備されていない。このような状況で、管理栄養士養成施設である当学科が主催して本研究会が開かれた意義は極めて大きかったと思われる。

学術集会会長、東京医療保健大学副学長・
医療保健学部 医療栄養学科長 小西 敏郎



会場内の様子



設置した看板



メンバーとの集合写真



医療情報学科 新カリキュラムの科目紹介

医療情報学科では平成28年度から、医療分野と情報分野の双方にこれまで以上に優れた人材を輩出するべくカリキュラムを刷新いたしました。今回は、新科目のなかから「医療管理演習」と「情報ワークショップⅠ」をご紹介します。

医療管理演習：診療報酬制度の知識を用いたデータ分析体験

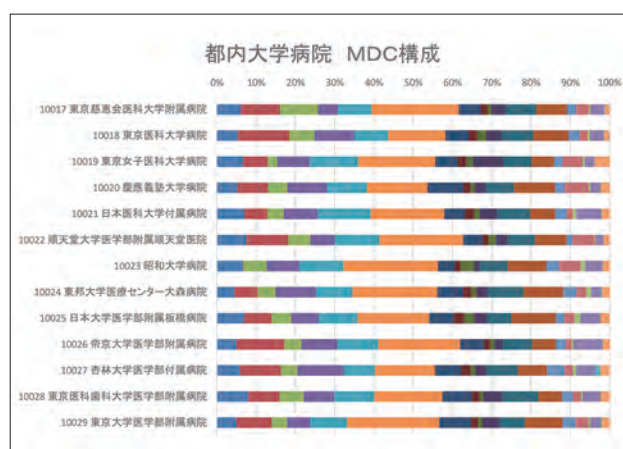
医療情報学科の新カリキュラムでは、2年次の必修科目として「医療管理演習」を新設しました。病院の経営資源であるヒト・モノ・カネの流れは、医師・看護師・管理栄養士等が行った診療活動をもとに作成される「診療報酬明細書（レセプト）」に集約されています。そこで、診療報酬制度の基礎を学ぶと同時に、診療報酬請求に伴って生ずる各種データをもとに病院におけるヒト・モノ・カネの流れを学ぶことも、この科目の重要なねらいです。

本年度からの新カリキュラム移行を前に、旧カリキュラム最終年度となる2017年1月の授業において、試行的にこのデータ分析体験を採り入れることにしました。

授業で使用了のは厚生労働省が実施している「DPC導入の影響評価に関する調査」で各病院から提出され、同省が単純集計を行った上で公表しているデータ（オープンデータ）です。学生は4～5名程度の班に分かれ、90種類にのぼるオープンデータの中から自らが関心をもったものを再集計し、グラフ等を作成して分析結果を発表していきました。とくに病院の種類ごとに在院日数や救急車の受け入れ状況等をまとめた班が多く、発表会では質疑応答も活発に行われました。

現在の診療報酬制度では、高機能な病院に対して診療情報管理士

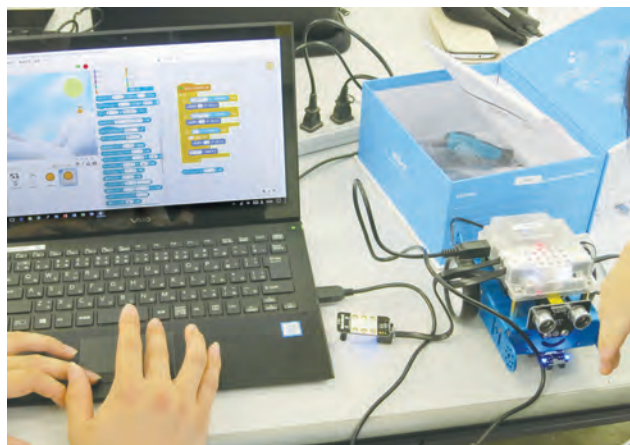
等を配置するとともに、これらのデータの精度向上を図る委員会の開催を義務づけています。医療情報学科では、新カリキュラムで新設する「医療管理演習」等で診療報酬制度に関連したデータに触れる機会を積極的に設け、このような委員会を通じて病院経営の改善に貢献できる人材の育成に努めてまいります。



情報ワークショップⅠ：実際にモノに触れる情報学習

医療情報学科 新カリキュラムの「情報ワークショップⅠ」は、情報技術の導入教育のための科目で、新入生が最初に触れる演習科目です。本科目では、ロボットプログラミングやパソコン組み立てといった“実際にモノに触れる”演習を実施しています。

ロボットプログラミングでは今年度からmBotというキットを導入いたしました。これはSTEM教育の教材として世界中で広く使われているロボットキットです。学生達は、まずこのロボットに搭載



された様々なセンサー（光、音、超音波、etc）に反応して画面上のキャラクターを動かすプログラムの作成を学びます。

それに慣れてから、今度はロボットに搭載されたモーターを実際に動かす方法を学びます。昨年度は、学生達の作ったロボット同士を競わせるレースゲームを行いました。この演習を通して、学生達は順次実行や条件分岐、繰り返し処理といった基礎的なプログラミングの要素を学んでいます。

また、本科目ではパソコン組み立て演習も行っています。これは、情報分野では最も基本的な道具であるパソコンを、学生自らの手で組み立ててその構造を実感と共に深く知ることが狙いです。私たちの日常には様々な形態のコンピュータがありますが、その内部はどれも概ね同じような構成をしています。パソコン組み立て演習では、こういった構成装置を実際に手にとって1つのコンピュータとして組み立てることで、各々の装置の形状や機能、役割などを体験を通じて学びます。昨年度の実施では、学生達は部品間の配線を間違えたり、CPUやメモリモジュールをマザーボードにはめ込むのに意外と力が必要ことに驚いたりしながらも、自らの手でパソコンを動く状態にまで組み立てました。

このように本科目では実際の体験を通じた学習を重視しており、学生達は楽しみながら、IT職種や医療関連職種の双方で役に立つ基礎的な情報技術を身につけています。

学生生活の実態 ～親子のコミュニケーションの必要性～

東が丘・立川看護学部学生生活支援委員会では、平成25年度から学生生活の実態を把握し教育活動に活かす目的で、毎年11月頃に学生生活実態調査を実施しています。昨年度（平成28年度）の結果の一部を紹介させていただきます。

家族と同居している学生が80%以上で、一人暮らしの学生は10%程度です。不安や悩みを感じたときの相談相手は、大学の知人・友人が37%と最も多く、次いで家族が30%という結果でした。しかし、相談する相手がいないと回答した学生も7%おりました。また、約半数の学生は、授業についていけないと感じており、大学を辞めて進路変更したいと思う学生も35%いるという結果が得られました。実態調査の結果では、学生の半数は専門的な授業についていけず、自分は看護師になれるのか悩みながら、学生生活を送っていると考えられます。そのため、本学では教員たちが授業に関する質問や相談に応じるオフィスアワーを設けており、学生が主体的に学習に取り組むことができるように支援しています。また、本学部は各学年2名の教員からなる学年担任制をとっており、学習に関することや将来の進路に関すること等、学生生活全般の相談窓口としています。さらに、各学年の学生と担当教員で構成されたコンタクトグループ

を作り、異なる学年の学生との交流や情報交換できる機会を設けています。

このような環境を整えておりますが、休学や退学に至る学生は増えているのが現状です。学生との面接を通して感じることは、学生生活や日常生活に対する学生と家族の捉え方が異なっていたり、家族に自分の状況を説明できない学生がみられることです。大学生になると親に心配をかけたくないという心理が働き、家族に相談しなくなるのかもしれませんが。日常的に親子間の会話の機会を持つように心がけてください。一人暮らしで連絡がないのは元気な証拠と思わずに連絡をとってみてください。コミュニケーションの基本は、お互いの意思を確認し分かり合うことです。

東が丘・立川看護学部における学生生活全般の満足度は年々高まっているという結果が得られております。引き続き細やかに学生支援を行いながら、将来、看護師になる学生たちを育てていきたいと思っています。

東が丘・立川看護学部 学生生活支援委員会 委員長
精神看護学領域 准教授 田中 留伊

看護師国家試験100%合格を目指して

本年度、災害看護学コースの第1期生が看護師国家試験に挑戦します。この関門を通り抜けなければ4年間頑張ってきた看護師への道は開かれないのです。全国の合格率は90%前後と高いだけに受験生たちのストレスは高く、自分だけがという不安を抱えたりもします。看護師になるべく育成した学生たちを全力で支えたいと国試対策委員会ではあらゆる方略を考案しています。

第1期生は先輩がいない状況であり、国家試験への危機意識が低く受験勉強に取り掛かる時期も遅かったように感じますが、昨年度の実験の結果や出題傾向についての4月に行ったガイダンス終了後からは試験に向けた意欲的な姿勢が見えるようになってきており、講義外の補習講義も自分の時間を使ってほぼ全員が参加している状況です。次年度から出題傾向も変更される予定となっており、近年では、単なる暗記ではなく、彼ら彼女らが臨床の現場に出たときに、患者への安全面を考えた知識を問う問題や患者の状況が理解できているかという状況判断を問うような実践力が問われる出題傾向に成ってきています。臨床に出たときに必要となる知識であり、医療事故の側面からも良い出題傾向になってきていると考えますが、学生にとっては、難問です。これに対応するには、より多くの問題を解くことが合格への道となります。委員会では、今年度は6回の模擬試験を計画しています。

今後の計画としては、模擬試験で時間配分を体得し試験に慣れる事と、出題傾向を考慮した学習会、学生同士での学びを共有する場を設け計画的に看護師国家試験に対応できる学生を育成していき、第1期生の100%合格を目指していきます。

更に、本学では、国家試験対策委員会だけではなく、全教員が学生を支援する体制をとっており、領域別に配置された卒業研究の学生は、その領域の教員が国家試験と就職活動にも支援し責任を持つことになっています。また、領域ごとに国試対策学生委員を決め、その学生が中心となり、領域を超えた学習会も今年度は実施する予定です。学生委員も全員が合格するべく意欲的に協力しています。

目標達成には、ご家族の方々のご支援が不可欠です。学生たちの体調管理や試験に必要な模擬試験代金、参考書等の購入など金銭的な負担も生じます。更に、精神的な支えも極めて重要です。患者家族の支えとなる看護師になるよう育成してきた学生たちを必ずや看護師として社会へ送り出すべく、ご協力をお願いいたします。

教員一同、第1期生全員が合格して笑顔で卒業して欲しいと思っています。

東が丘・立川看護学部
国家試験対策委員会（災害看護学コース）副委員長
准教授 岩満 裕子



遠距離通学を楽しく

感染制御学M2の鎌田です。私は、札幌からの遠距離通学をしています。

毎回飛行機での通学となりますが、学割などの割引を利用できる年齢は遠い昔に通り過ぎましたので、LCC（low-cost carrier）航空会社のチケットを利用して通学しています。どの航空会社の、どのチケットがお得なのか、どれくらいまでの荷物の量なら追加料金を払わなくていいのか、席はどこを選べばすばやく降りることができ快適なのかなど、今ではLCCマスター（自称ですが）といえるほどの情報を持っています。

また、登校日前日に東京入りすることが多く、その際は、都内のどこかに1泊する必要があります。これに関しても、女性が一人で安心して安く泊まれる宿はどこかについての情報をかなり得ていると思います。



集中講義の際に、坂本が教授（写真中央）を囲んで感染制御学の仲間と。本人右から2番目。

遠距離通学で入学をためらっている方がいましたら、ぜひご相談ください。きっと、遠距離通学を楽しく、快適に、そしてお得にするための情報をお伝えできると思います。

このように、遠距離通学には多少のお金と時間がかかりますが、もし誰かに「そこまでして遠距離の学校に通う必要があるの?」と聞かれたら、迷うことなく私の答えはYesです。「勉強とは自分の無知を除々に発見していくことである」とウィル・デュラントという米国の歴史家が言っていますが、自施設の感染管理者として5年間の過ごし、ややマンネリ気味に業務をこなしていた私にとって、現在の大学院での勉強は、何もわかっていなかった自分に気付くいい機会でした。

入学から、あっという間に1年が過ぎましたが、新しい出会い、学びにあふれた日々を送らせていただいていると思います。学会参加時に遠い壇上でお見かけした、感染制御領域の著名な先生方の講義を直接受けることができるのはもちろんのこと、集中講義期間はさまざまな領域の講義を受講する機会があり、新しい分野についての学識を広げることができました。そして、領域を超えた仲間との交流により、自分とは違う専門領域の方々がどのように熱意を持って患者や医療を支えているか知ることができました。また、微生物学的実験がほぼ未経験の私のような者でも、諸先生方のご指導のもと、自分で手を動かして得た実験データで研究を進めていけることは、この大学院ならではの貴重な体験であると思っています。

まだ中間地点で、これからが大学院での勉強の山場となりますが、残りの日々も仲間と支えあい、充実した学生生活を送っていききたいと思っています。

医療保健学研究科 修士課程2年（感染制御学）^{かまた めい} 鎌田 明

波乱万丈の博士課程1年目を終えて

私は北海道札幌市の看護専門学校で教員をしていた平成25年3月に本学の修士課程（看護マネジメント学）を修了し、その後、民間病院の副看護部長となり、認定看護管理者の資格を取得しました。看護師がやりがいをもって患者さんにより良い看護を提供できるよう看護管理者として奮闘するなかで、さらに論理的な思考で問題解決できる力、マネジメント力、看護師はもちろん多職種に対する発信力など、リーダーとしての力を身につけるためには博士課程での学びが必要と考え、進学を決意しました。

入学して4か月後の昨年8月からは坂本が副学長の故郷でもある和歌山県に本学が看護学部を設置するための準備室員として、再び看護基礎教育に携わることになりました。博士課程への挑戦と長年住み慣れた北海道からの転居、新たな環境での仕事等、いくつもの課題が重なったことで、50代の自分の心身状態を思い知る結果となり、仕事や研究には健康管理が重要であることを再認識いたしました。波乱に満ちた1年目、計画通りに研究準備が進んでいないのが実情ではありますが、そのような中でも研究演習や特別講義は大学院教授陣の授業を贅沢にも少人数で受けることができ、学ぶこと

の喜びを感じる機会となりました。今後は環境にも慣れてきましたので、新学部で学生を迎え入れる準備の仕事に勤しむとともに、学業では研究計画を立案し、進めていくことが当座の目標です。

和歌山県は気候も温暖で、高野山、熊野古道、南紀白浜など見どころが多く、海の幸や野菜・果物も豊富です。うまく時間を使い、仕事と学業の合間にいろいろなところにも行ってみたいと思っています。皆様も新しい学部のできる和歌山へ、ぜひ、お越しください。

医療保健学研究科
博士課程2年（看護学）
^{たかむら 昌枝} 高村 昌枝



桜が満開の和歌山城にて

診療看護師（NP）として羽ばたく修了生達 !!!

本大学院看護学研究科看護学専攻修士課程の高度実践看護コースでは診療看護師（NP）を養成しています。診療看護師（NP）とは、アメリカ等で活躍しているナースプラクティショナー（NP）と同等の能力を持ち、患者さんの症状をタイムリーにマネジメントし、QOLの向上に寄与できる修士課程修了者で、日本NP教育大学院協議会の認定試験に合格した看護師です。

本大学院では昨年度までに117名の修了生を輩出しています。修了生は50以上の施設に就職し、それぞれの職場で高い評価を受けております。診療看護師の活動の場は、施設の認知の広がりに伴い年々拡大しています。その中でも国立病院機構で診療看護師として活躍している修了生は、修了生全体の60%を超えています。1施設に複数の修了生が配置されチームを組んで医療の質の向上に取り組んでいる施設もあります。特に東京医療センターは日本で最も多い10名以上の診療看護師が様々な診療科で活躍しています（写真）。

修了生たちは急性期の医療施設だけではなく、呼吸器等の管理が必要な慢性期の医療施設、在宅医療の場、また無医村地区や離島における医療現場においても活躍の場を広げています。また、昨年4月に発生した熊本地震では、九州地区の診療看護師が集結し、多くの被災者の皆さんに高度な医療を的確に提供し高い評価を受けました。突然訪れる災害の現場における災害医療においても「看護師のこころと医師の思考過程」を備えた診療看護師への期待は高いもの

と考えられます。

本学の学部入学の動機を「診療看護師を目指す」として入学し、本コースの入学条件である就業5年の実績を積むため頑張っている学部卒業生もいます。4、5年後には本学部を卒業した診療看護師の誕生も期待されます。

看護学研究科 修士課程高度実践看護コース 准教授 ^{いわた} 岩本 郁子



東京医療センターで活躍する14名の修了生達

信頼される助産師を目指して ～助産師の大学院修士課程での教育と助産師としての社会貢献

日本は2010年以降人口減少社会に入り、国をあげて子育て支援に取り組んでおります。妊娠、出産、子育て支援にかかわる助産師の役割は、今後ますます重要となつてまいります。本学では信頼される助産師養成を大学院で行っております。助産師の国家試験受験資格を得るためには、看護師の免許を取得し1年間の助産にかかわる教育（基礎助産学、助産診断・技術学、地域母子保健、助産管理、分娩介助10回程度を含む臨地実習などの履修）が必要とされます。現在、助産師の教育は大学院、学部教育、専攻科などで行われております。安心安全な助産を提供でき信頼される助産師を育てるためには、養成課程での基礎から応用に至るまでの系統的な教育がきわめて重要と考え、本研究科では、看護師免許を取得した後、大学院

教育の中で助産師を養成しております。自ら気づき、学び、考え、自律的に行動でき、人口減少の歯止めにつながる活躍ができる助産師を養成するには、大学院での教育が不可欠であると考えております。信頼される助産師になるための道のりはエンドレスです。助産師の専門的な教育を系統的に大学院で学び、信頼される助産師のスタートを切ることが望ましい姿ではないでしょうか。

大学院教育に取り組む一方、大学の専門性を活かし、地元が目黒区等との連携・協力し医療・健康・保健に関係する地域・社会貢献を行っております。昨年からは地域のみなさまの健康増進のお手伝いをするために、まちの保健室として「ひがしが丘保健室」を開催しています。平成29年9月15日（金曜日）に開催予定の「ひがしが丘保健室」では、高度実践助産コースの大学院生とともに妊娠・出産・子育てのための講座を開講する予定です。講座では、実演を交えながら参加型の講座を予定し、①より健康に妊娠期を過ごすこと、②立会い出産に向けたポイント、③新生児の沐浴のコツ、④授乳をいかに終了させるか（卒乳・断乳）について実施する予定です。是非お気軽にご参加頂けたらと存じます（写真は昨年9月に実施された「ひがしが丘保健室」において来場者にアロママッサージを実施している様子です）。



看護学研究科 修士課程高度実践助産コース 准教授 ^{はしもと} 橋本 美幸
講師 ^{ひらで} 平出 美栄子

平成29年度 入学者選抜状況

平成29年度の入学者選抜はすべて終了しました。

入学試験の概要は以下のとおりです。

【入学試験実施概要（2016/08～2017/03）】

●医療保健学部

試験区分	試験日	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数
8月AO入試 (医療情報学科)	平成28年8月10日(水)	10	16	16	16
9月AO入試 (医療情報学科) (医療栄養学科) (看護学科)	9月11日(日)	5	5	5	5
		15	42	42	19
		8	89	87	10
10月AO入試 (医療情報学科)	10月9日(日)	8	4	4	4
12月AO入試 (医療情報学科) (医療栄養学科)	12月11日(日)	5	5	5	5
		5	18	18	8
3月AO入試 (医療情報学科)	平成29年3月2日(木)	2	1	1	1
3月特別AO入試 (医療情報学科)		若干名	2	1	1
計		58	182	179	69
推薦入試 (指定校推薦・公募制推薦)	平成28年11月13日(日)	57	72	72	47
計		57	72	72	47
センター利用入試 (前期)	平成29年1月14日(土) 15日(日)	37	750	750	301
センター利用入試 (後期)		9	29	29	13
一般入試 (医療栄養学科特別日程) (医療栄養学科)	1月25日(水)	15	51	50	20
一般入試 (前期)	2月4日(土)	80	716	639	168
一般入試 (後期)	2月18日(土)	24	220	191	39
計		165	1766	1659	541
合 計		280	2020	1910	657

●東が丘・立川看護学部

試験区分	試験日	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数
推薦入試 (指定校推薦・公募制推薦)	平成28年11月13日(日)	80	88	87	64
			54	54	51
計		80	142	141	115
センター利用入試 (前期)	平成29年1月14日(土) 15日(日)	15	249	249	79
			102	102	27
センター利用入試 (後期)		5	19	19	8
			6	6	0
一般入試 (前期)	2月4日(土)	80	298	277	67
			140	126	30
一般入試 (後期)	2月18日(土)	20	104	95	17
			49	36	5
計		120	967	910	233
合 計		200	1109	1051	臨床 235
					災害 113
					348

●助産学専攻科

試験区分	試験日	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数
推薦入試	平成28年9月10日(土)	15	31	31	10
社会人推薦入試	9月10日(土)		5	5	1
一般入試	10月9日(日)		43	41	9
合 計		15	79	77	20

国際交流

International Exchange

全学合同海外研修を実施

国際交流委員会主催の平成28年度全学合同海外研修は、2017年3月12日(日)～19日(日)、ハワイ大学看護学科シミュレーションセンター及びシャミナード大学看護学部で実施されました。23名の学生が参加し、例年通り無事研修を終えることができました。

現地実習に先立ち、後期に月1回程度の事前学習会を開催して現地研修への準備を重ねました。例年は、シャミナード大学訪問は看護学生のみで、医療情報と医療栄養の学生は別の施設の見学および講義の受講でしたが、今回初めて全員揃って、上記二つの大学で研修を受けました。

ハワイ大学では、主として、高度な医療機器を使ったシミュレーション演習に参加しました。それぞれの専門領域を活かしてチームを組んで行う演習は、学生には驚きであり、新たな発見があり、積極的に参加していました。また、ハワイ大学の伝統文化を知るという目的で、キャンパス内にあるタロ芋畑の見学を行い、ハワイ原住民のソウルフードであるタロ芋がもつ意味などについて講話を伺いました。

シャミナード大学では、本学の教員が模擬患者になって、チームでエラーに対応するというシナリオで演習を行いました。また、アメリカの在宅ケアにおけるITの活用についても非常に興味深い講義を受けました。シャミナード大学の学生とは、昼食をしながら交流し、昼食後には、お互いにそれぞれフラとソーラン節の踊りを披露し、また、折り紙を手ほどきしたりして、楽しい交流の時間を過ごしました。

海外の二つの大学で、日本ではまだあまり行われていないスタイルの授業を受け、新たな知を獲得し、異文化を学んだ刺激的な1週間、今後に役立てたいと多くの参加学生が語っています。



ハワイ大学キャンパスにて



シャミナード大学の学生と交流



ハワイ大学内のタロ芋畑の見学



ハイテクを使った静脈穿刺の訓練

マヒドール大学（タイ）研修生訪問

去る平成29年4月3日、タイのマヒドール大学から、シュリントン・カラムパコーン教授以下16名が、本学五反田キャンパスの看護学科を訪問しました。一行は、日本の産業保健師の活動状況を学ぶために来日したものです。研修は看護学科と国際交流センターの共催の形で企画・実施されました。看護学科では、佐々木美奈子教授が中心となって受け入れプログラムを計画し、日本産業看護学会理事長の河野啓子氏、NTT東日本健康管理センターの田中希実子部長にもご協力いただきました。

日本の産業保健師の役割や活動状況、タイの産業保健師の教育や配置、日本の病院における職員のメンタルヘルス支援システム、医療関係者の産業保健等についてそれぞれが講義を行い、またNTT東日本関東病院人間ドック部門の見学も行いました。途中、咲き始めた桜をみていただくために、池田山公園にもご案内しました。研修は、終始なごやかな中に、多くの質疑応答もあり、充実した情報交換や意見交換の場となりました。



マヒドール大学から木村学長への記念品授与

国際交流アドバイザー
早野 真佐子



研修を終えて参加者全員で



研修風景



池田山公園にて

トピックス Topics



和歌山看護学部・千葉看護学部の準備状況

両学部共に、文部科学省への申請書類を整え、3月末・4月末に文部科学省及び和歌山県・千葉県に対し申請をいたしました。この後、文部科学省内で書類の確認が行われ、問題が無ければしかるべき時期に認可を受けることができ、学生募集等が本格的に始まります。

両学部の情報等は本学HPでも紹介しておりますので、是非ご覧ください。

第51回関東大学女子バスケットボール大学選手権大会で本学バスケ部が健闘!!

4月29日(土)から5月14日(日)に開催された全80チームが参加する第51回関東大学女子バスケットボール選手権大会において、本学女子バスケットボール部は見事準優勝を飾りました。女子バスケットボール部の活躍は目黒区でも表彰されることとなり、先日、平成29年度「目黒区スポーツ表彰」を受賞いたしました。昨年は優勝した大会でしたので、学生は悔しいと思いますが、大健闘です。お疲れ様でした。

東京医療保健大学 地域医療栄養学生グループの学生活動報告

世田谷区玉川ボランティアビューローにおけるボランティア活動が2月26日(日)及び27日(月)に玉川ボランティアビューローにおいて行われ、豚汁やおむすびなど、地域の炊き出し活動に本学医療栄養学科の学生が参加しました。本活動は2年目ですが、せたがや福祉学会にも2年連続報告予定としており、今後も継続して本学学生、区、学会と連携し、よりよい地域貢献ができる学生活動へつなげたいと思います。

「ひがしが丘保健室」「まちの保健室」の開催について

目黒区の後援を受けた地域貢献イベント「ひがしが丘保健室」を3月17日(金)に国立病院機構キャンパスにて開催いたしました。事前に目黒区報で告知したこともあり、昨年9月に開催した1回目の2倍以上となる75名の方が訪れました。

内容は、前回と同様に健康相談・健康測定・アロマセラピー体験を行うとともに、新たにピラティス体験やノーリフトケアの講演と演習も行いました。次回は9月15日(金)に公開講座(目黒区共催)と併せて開催する予定です。ご都合が合う方は是非ご参加ください。

大学ホームページの紹介

本学のホームページでは、大学の取り組みを紹介している他、各学科教員の研究分野に関するコラム記事を載せたり、入試情報を公開しています。



●東京医療保健大学ホームページはこちら
(<http://www.thcu.ac.jp/>)



●受験生情報サイト「LiFE」はこちら
(<http://www.thcu.ac.jp/nyushi/>)

編集後記 Editor's note

初夏の兆しに包まれ、ふと振り返るとついこの間までの新学部の設置申請等に伴う書類作りに明け暮れた日々が思い浮かびます。こころの編集担当でありながら、この1年は本誌に力を傾注ができなかったふがいなさに反省しきりです。

さて、和歌山及び千葉看護学部の設置構想については、前号の23号で紹介しましたが、実はこの号の発行直後の3月下旬には、新学部で養成を実施する予定の養護教諭課程認定申請と両学部の入学定員の増加に関する認可申請をそれぞれ提出しました。

また、4月には学部の設置届出及び保健師・看護師学校指定申請を提出したことによって、現在の状況を一言で表すと「認可申請中」ということになり、ある程度の制約はありつつも、新学部のPR活動に関しては実施が可能となりました。

何分にも入学定員の増加の認可をいただかなければ、その他の申請がどうであろうと新学部は成立しませんので、6月末と見込まれている大学設置・学校法人審議会からの答申を心待ちしているのが実情です。認可されますと本格的な学生募集活動や進学ガイダンスなどを展開していけることになります。

そして、このころに関して考えますと、2学部が増加することによってページ数も増加します。両学部に1ページ与えるにしても2ページ膨らむことになります。2ページ増ということは実際上ないと思いますので、4ページ増ということになるかと思います。これに伴って、ますます内容を充実させるよう抜本的に編集方針を見直すなどのよい機会になることを目指していきたいと思います。(1)